

# 那賀川水系大規模氾濫減災協議会

## 平成30年7月 取組状況

### ■ 取組

#### 1. 円滑かつ迅速な避難行動のための取組

##### (1) 平時から住民等へ避難行動のための周知・教育・訓練に関する事項

⑥効果的な水防災意識社会再構築に役立つ広報や資料を作成      パンフレット・イベント・web等を活用  
 した水災害広報の充実      【四国地整】

那賀川河川事務所は、阿南の夏祭りの7月20日・21日に、徳島県県土整備部河川整備課・流域水管理課・那賀川農地防災事務所と共に「水の週間in那賀川」としてブースを出店しました。

展示スペースには、過去の台風被害をパネル展示して来場者に洪水の恐さを理解してもらうことができました。

また、気候変動の現状や年平均降水量の変化傾向等のパネルも展示し、洪水のリスクが高まっていることを理解してもらうこともできました。

今後もイベント等の活動を通じて那賀川への関心を地域の皆様に持っていただき、合わせて平常時から洪水に備える「水防災意識社会」の再構築を行っていかれたらと思います。

**1. 那賀川の特徴について**  
 ○那賀川流域の降水量とこれまでの洪水

那賀川流域は、日本の中でも有数の多雨地域であり、上流域の年間降水量は3,000mmをこえており、下流域を含めても流域のほとんどが2,000mmを越えています。

洪水名	成因	2日雨量	被害概要
昭和25年 9月洪水	フェーン効果	303mm/2日	被害・浸水: 6,050戸
昭和46年 8月洪水	台風23号	483mm/2日	被害・浸水: 170戸
昭和51年 8月洪水	台風17号	723mm/2日	被害・浸水: 8戸
平成10年10月洪水	台風23号	448mm/2日	被害・浸水: 200戸
昭和22年 9月洪水	台風12号	700mm/2日	被害・浸水: 72戸

※1. 被害は高野河分を含む

年間平均降水量分布図 (昭和56年～平成23年)  
 図出典: 高松地方気象台HP

**2. 気候変動の現状と住民意識について**  
 ○年平均降水量の変化傾向

那賀川流域の皆さんの約4割は、那賀流域の一年間の降水量は多い年と少ない年の差が大きくなっていると感じています。実際、降水量は多い年と少ない年の差が大きくなる傾向にあり、大雨による洪水や少雨による渇水が発生しやすくなっています。

那賀川流域住民の意識

質問: 那賀川流域の一年間の降水量はどう変化していると思いますか?

増加している	16%
減少している	10%
変化していない	6%
その他	3%
分からない	23%

多い年と少ない年の差が大きくなっている: 41%

少ない年と少ない年の差が小さくなっている: 1%

日本における年平均降水量の経年変化(明治31(1898)～平成23(2011年))  
 図出典: 気候変動監視レポート2011(文豪庁)

那賀川流域における年平均降水量の経年変化(昭和38(1961)～平成23(2011年))  
 図出典: 気象庁

